

自転車利用環境の現状

1. 石岡市を取り巻く環境

(1) 市の特徴

- 茨城県のほぼ中央に位置し、面積は 215.53 km² で、市域の北西部に連なる筑波山系から南部の市街地にかけてなだらかな丘陵地が広がり、平地に至る、変化に富んだ地形を形成し、美しい景観にも恵まれている。
- 広大な霞ヶ浦を臨み、そこに注ぐ恋瀬川、園部川があり豊かな水にも恵まれている。
- 原始古代から集落が開かれるなど、歴史は古く、中心市街地の近代建築物（看板建築等）や常陸国分寺や常陸国分尼寺等、歴史性の高い建造物が数多く存在している。



図 石岡市の位置

(2) 人口・世帯数等

- 平成 27 年の国勢調査の人口は 76,020 人で、平成 7 年をピークに減少傾向にある。一方、世帯数は 27,288 世帯で、一貫して増加傾向にある。
- 平均世帯人員は、2.79 人で、核家族化や一人世帯が増加していることが伺える。

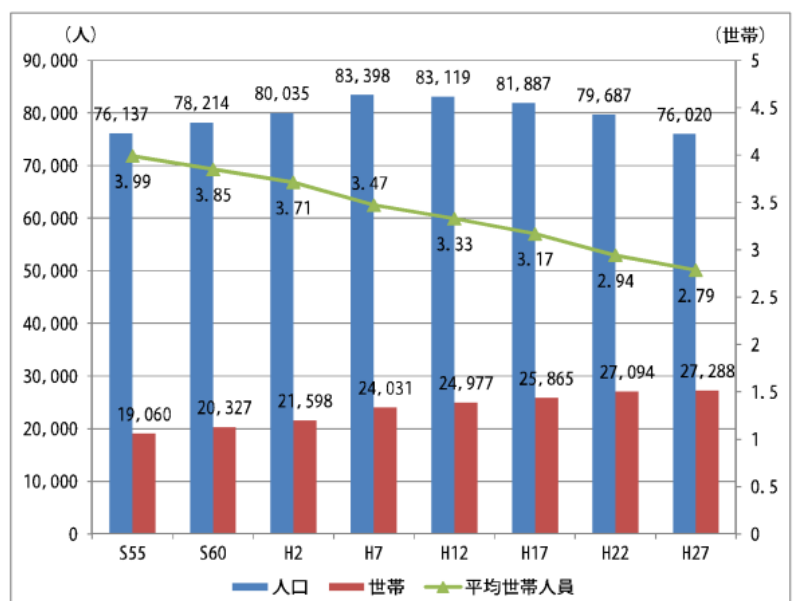


図 人口・世帯数の推移（資料：平成 27 年国勢調査）

(3)観光

- 吾国山，水郷筑波国定公園に属する筑波山系，霞ヶ浦等の豊かな自然や，常陸国分寺，遺跡，看板建築をはじめとした歴史・文化資源等，多くの観光資源に恵まれている。
- 観光果樹園や朝日里山学校等体験型の施設がある。

(4)土地利用

- 農地・山林等の自然的土地利用が，市全域の約 80%を占め，宅地や道路等の都市的土地利用が約 20%となっている。
- 水郷筑波国定公園や吾国愛宕県立自然公園，自然環境保全地域等，貴重な自然資源を守るための規制等がかかっている。
- 土砂災害警戒区域等が指定されている。

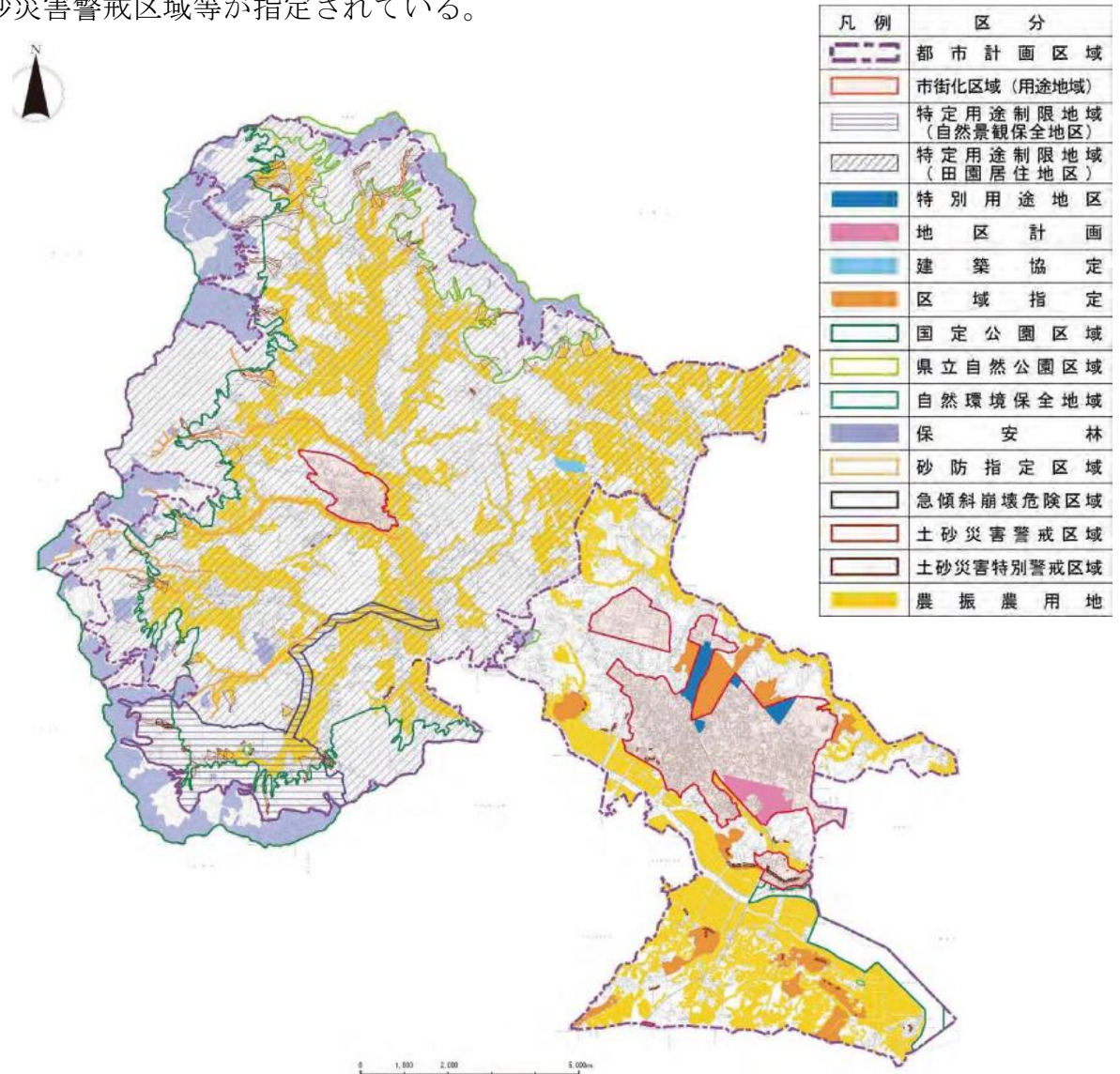


図 法適用状況図 (資料：平成 28 年都市計画基礎調査等)

(資料)石岡市都市計画マスタープラン

(5)道路・交通

- 主な道路網は、国道 6 号、国道 355 号、主要地方道石岡筑西線、主要地方道笠間つくば線、広域農道フルーツライン等によって構成されている。
- 平成 26 年度における JR 常磐線の 1 日平均乗車人員は、石岡駅 5,702 人、高浜駅 1,127 人となっている。平成 21 年からの推移では、石岡駅は多少の増減は見られるがほぼ変わらず、高浜駅は一貫して減少傾向となっている。
- 多くのバスの 1 日の運行本数は 10 本未満であり、10 本以上運行する路線は高速バスを含めて 4 路線となっている。
- 石岡地域では、石岡駅から廃線となった鹿島鉄道線を利用した BRT 専用路線が整備されている。

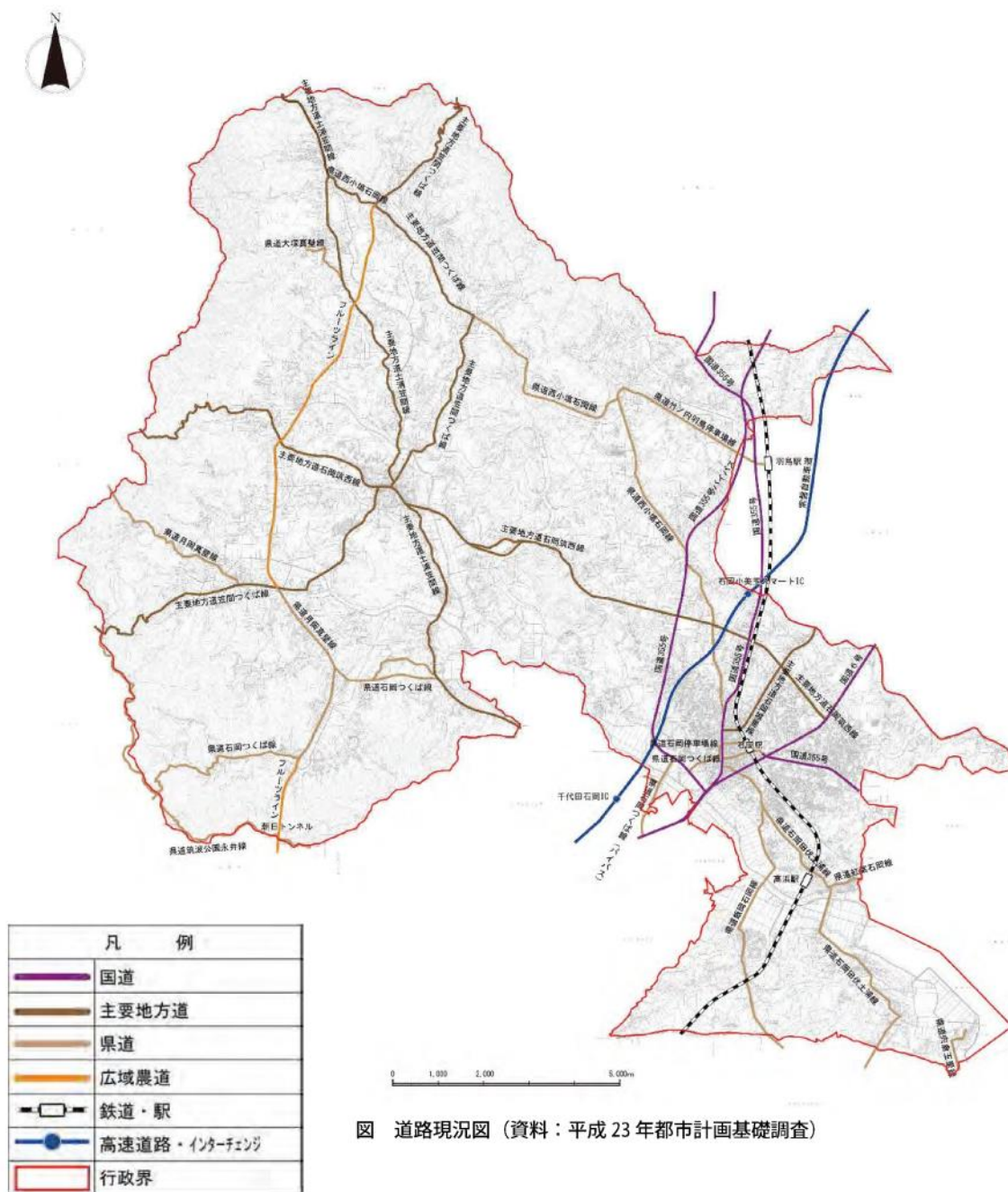


図 道路現況図 (資料：平成 23 年都市計画基礎調査)

(資料)石岡市都市計画マスタープラン

- 平成 19 年に石岡市巡回バスが廃止され，市内全域対象の乗合いタクシーが運行している。利用者数は，ほぼ横ばいである。
- 城南地区においては，高浜駅からも距離があり，狭隘な道路も多く，バスの運行が難しい状況にあることから，利便性は低い。また，市北西部の有明地区では，羽鳥駅からのバス路線があるが，柿岡地区や石岡地区と連絡する路線がない。
- 公共交通空白地域における移手段の確保等を検討している。

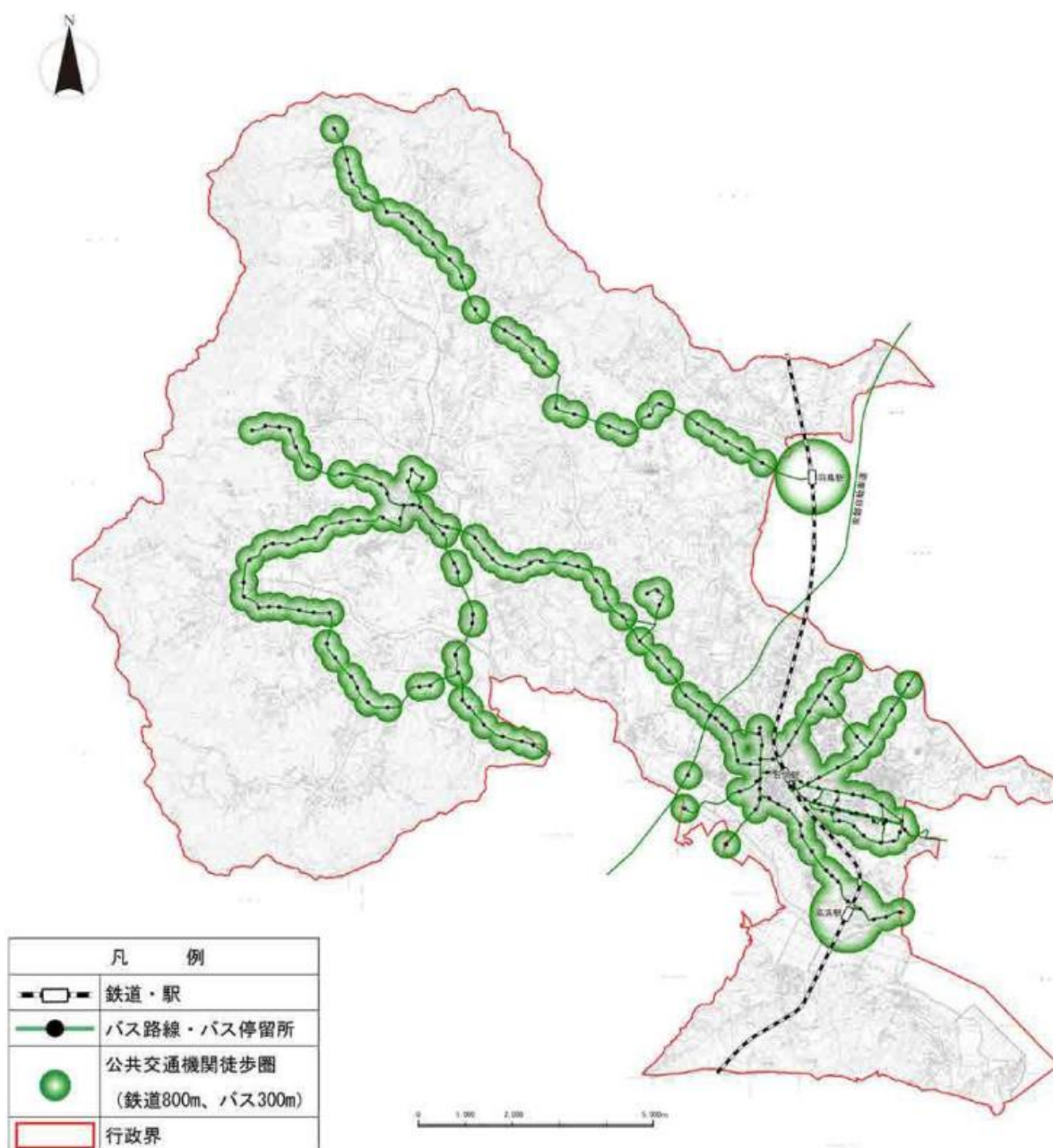
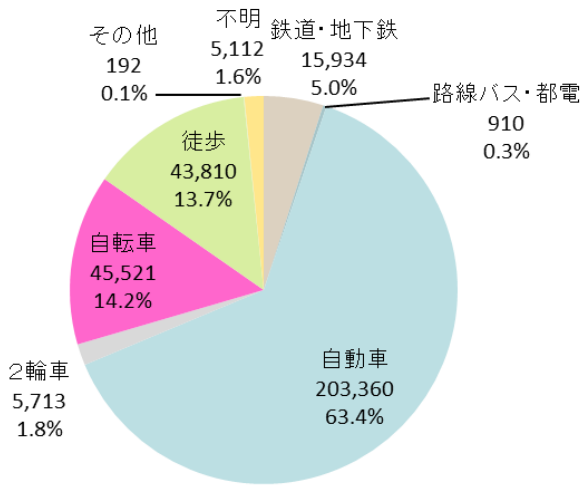


図 公共交通空白地域の状況（鉄道駅から 800m，バス停から 300m の範囲）
（資料：関鉄バスホームページ等を基に作成）

（資料）石岡市都市計画マスタープラン

2. 石岡市の自転車の利用状況

(1) 自転車の交通分担率



● パーソントリップ調査（H20）における石岡市の自転車の交通分担率は、14%であり、自動車の交通分担率が63%と高い。他市と比べて鉄道・地下鉄及び路線バスの交通分担率は低い。

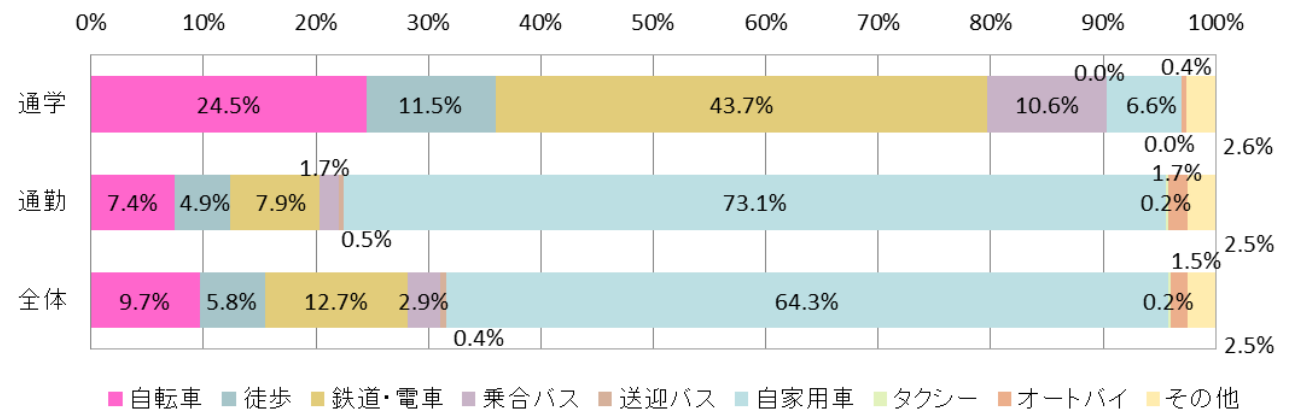
	石岡市	土浦市	つくば市
鉄道・地下鉄	5.0%	6.6%	6.1%
路線バス	0.3%	1.4%	1.3%
自動車	63.4%	64.0%	63.1%
自動二輪車	1.8%	1.8%	1.2%
自転車	14.2%	9.5%	13.7%
徒歩	13.7%	13.6%	13.0%
その他	0.1%	0.0%	0.2%
不明	1.6%	2.9%	1.5%

（資料）第5回東京都市圏パーソントリップ調査（平成20年）

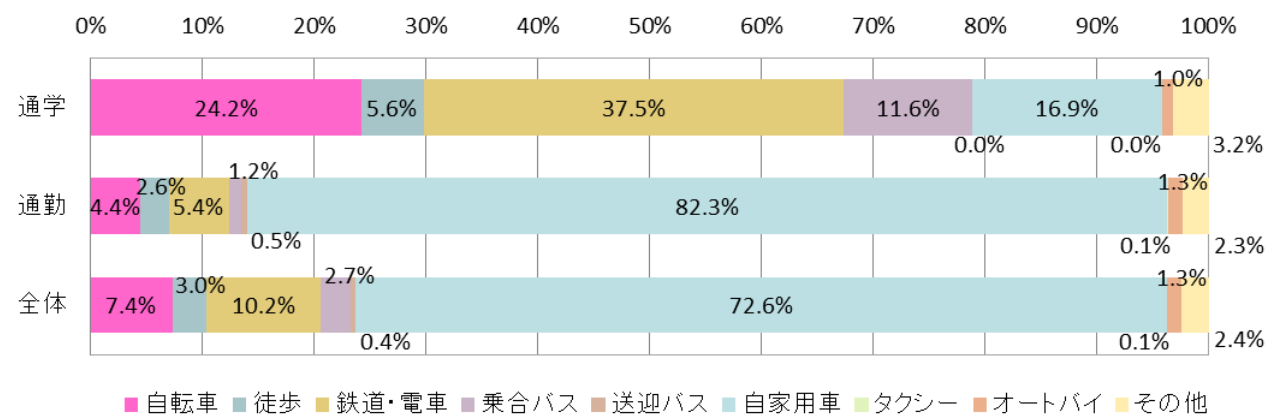
(2) 通勤通学等における自転車の利用状況

① 通勤通学等における自転車分担率

＜人口集中地区の利用交通手段＞



＜人口集中地区以外の利用交通手段＞



		自転車	徒歩	鉄道・電車	乗合バス	送迎バス	自家用車	タクシー	オートバイ	その他	総計
人口集中 地区	全体	506	302	662	152	23	3,352	10	78	132	5,217
	通勤	336	222	358	78	23	3,306	10	75	114	4,522
	通学	170	80	304	74	0	46	0	3	18	695
人口集中 地区以外	全体	2,439	995	3,355	895	127	23,951	22	414	808	33,006
	通勤	1,246	717	1,505	325	127	23,118	22	365	649	28,074
	通学	1,193	278	1,850	570	0	833	0	49	159	4,932

※複数回答であり、総数と必ずしも一致しない。対象は15歳以上の通学者及び通勤者
 ※人口集中地区は、エリア全てが人口集中地区である町丁・字等に限定するものとする。
 (資料)平成22年国勢調査 小地域集計 (総務省統計局)

- 市内15歳以上の通学者における自転車分担率は、24%程度である。
- 通勤者の自転車分担率は、人口集中地区では7%と人口集中地区外の4%と比べて高い。
- 通勤における自家用車の利用は、人口集中地区外において80%を超えている。

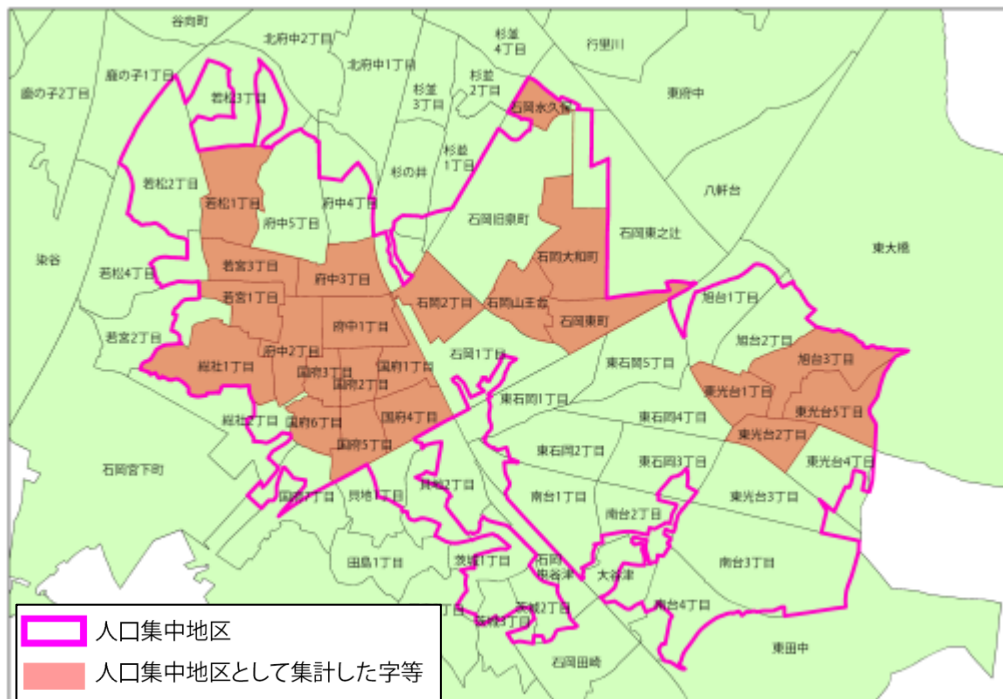


図 集計に用いた人口集中地区

②自転車駐輪場の状況

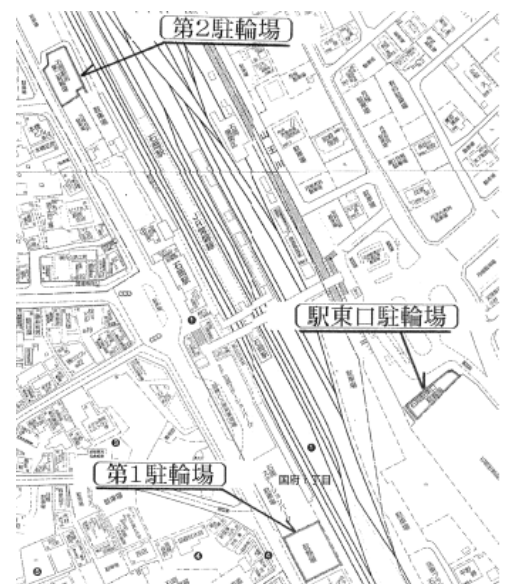
- 市営駐輪場は駅周辺のみ3箇所設置されている。合計1,350台の自転車等を収容できる。

＜市営駐輪場の収容台数＞

市営駐輪場名	収容台数
第一駐輪場	550台
第二駐輪場	400台
東口駐輪場	400台

図：駐輪場の所在図

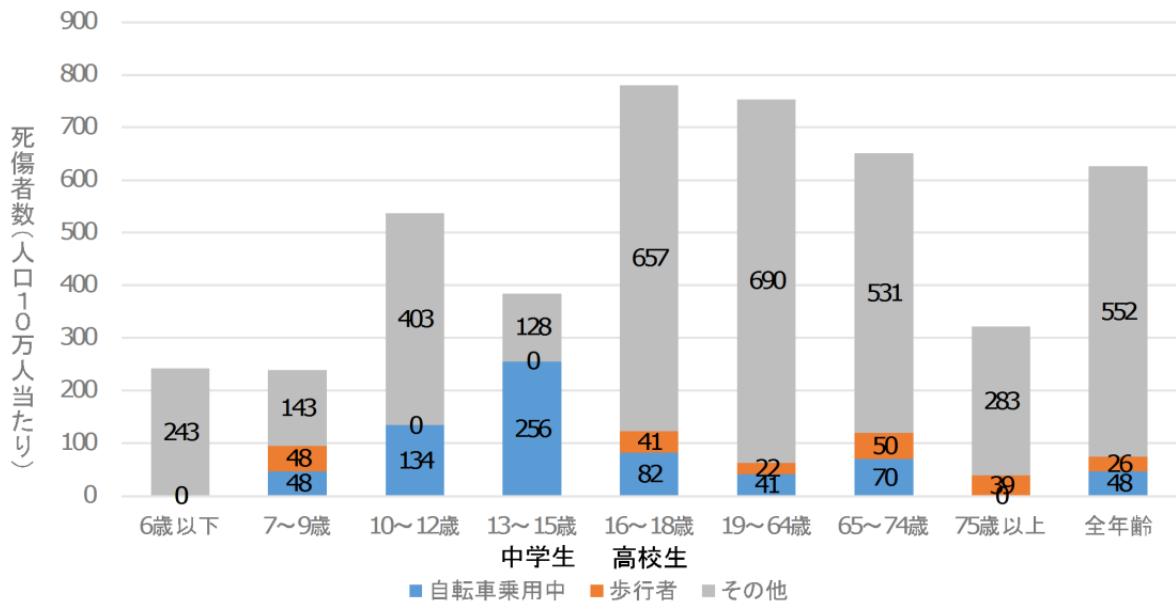
(資料)市営駐輪場の収容台数とその所在図(庁内資料)



(3)交通安全

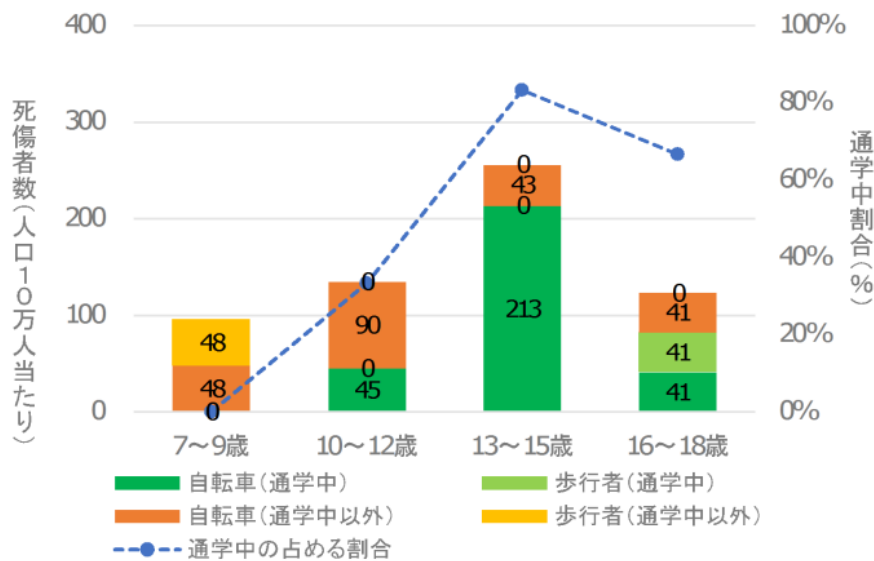
①自転車関連事故発生状況

＜石岡市の人口 10 万人当たり年齢層別・状態別死傷者数(H26)＞



(資料)交通事故分析センター

＜石岡市の小中高生の人口 10 万人当たりの通行目的別死傷者数(H26)＞



＜茨城県石岡市の年齢層別死傷者数(H26)＞

	6歳以下	7～9歳	10～12歳	13～15歳	16～18歳	19～64歳	65～74歳	75歳以上	全年齢
自転車	0	1	3	6	2	19	7	0	38
歩行者	0	1	0	0	1	10	5	4	21
その他	10	3	9	3	16	317	53	29	440

(資料)交通事故分析センター

- 10～15 歳の小学校高学年から中学生までの事故は、徒歩の事故はないが、自転車乗用中の事故により死傷する割合が他の年齢層に比べて高い。
- 自転車乗用中の事故では、中学生は通学中に 80%以上、小学校高学年の生徒は通学中以外で 60%以上を占めている。

②自転車の盗難状況と犯罪率

- 市内の自転車の盗難（平成29年時点）は、前年と比べて24件増加している。
犯罪率は0.9であるとともに、犯罪率順位は県内44市町村中12位である。

<自転車の盗難認知件数・犯罪率(H29)>

市町村名	自転車盗				
	平成29年12 月末 認知件数	前年同期比		犯罪率	犯罪率 順位 (44市町 村中)
		増減数	増減率(%)		
つくば市	522	-187	-26.4	2.235	1
土浦市	242	-86	-26.2	1.733	2
守谷市	109	-5	-4.4	1.646	3
ひたちなか市	219	36	19.7	1.404	4
水戸市	337	-66	-16.4	1.245	5
牛久市	104	-43	-29.3	1.226	6
龍ヶ崎市	92	-32	-25.8	1.188	7
高萩市	28	-8	-22.2	0.973	8
取手市	96	-66	-40.7	0.91	9
那珂郡東海村	34	-6	-15	0.902	10
結城市	46	-5	-9.8	0.894	11
石岡市	64	24	60	0.857	12
境町	20	3	17.6	0.823	13
日立市	145	-25	-14.7	0.802	14
大洗町	13	1	8.3	0.788	15
古河市	104	-17	-14	0.74	16
つくばみらい市	35	-3	-7.9	0.692	17
下妻市	29	-15	-34.1	0.679	18
筑西市	69	-12	-14.8	0.671	19
かすみがうら市	26	-22	-45.8	0.63	20
常陸大宮市	26	13	100	0.629	21
神栖市	57	-42	-42.4	0.6	22
那珂市	32	-2	-5.9	0.594	23
阿見町	27	-9	-25	0.569	24
笠間市	38	-16	-29.6	0.502	25
鹿嶋市	33	-17	-34	0.487	26
桜川市	20	7	53.8	0.485	27
小美玉市	24	-8	-25	0.478	28
常総市	26	-1	-3.7	0.427	29
潮来市	12	-4	-25	0.421	30
茨城町	12	1	9.1	0.371	31
河内町	3	3	-	0.34	32
北相馬郡利根町	5	-1	-16.7	0.316	33
坂東市	16	-12	-42.9	0.301	34
北茨城市	12	-3	-20	0.278	35
城里町	5	3	150	0.262	36
五霞町	2			0.234	37
稲敷市	9	-4	-30.8	0.217	38
銚田市	10	-10	-50	0.211	39
常陸太田市	10	-3	-23.1	0.197	40
結城郡八千代町	3	-1	-25	0.138	41
美浦村	1			0.066	42
行方市	2	-5	-71.4	0.059	43
久慈郡大子町		-1	-100		
茨城県総数	2,726	-646	-19.2	0.941	

※1 人口については、「いばらき統計情報ネットワーク【茨城県の人口と世帯(推計)】」を使用している。

※2 犯罪率は、人口1,000人当たりの認知件数であり、順位はワースト順位になっている。

(資料)茨城県警察

3. 上位・関連計画における位置づけ

石岡市における各種上位・関連計画により、自転車利用環境に関係する、市のまちづくりの方向性、方針を整理する。

(1) 自転車活用推進計画(平成 30 年6月策定 国)

- 環境負荷の低減や災害時における交通機能の維持, 国民の健康増進等新たな課題を解消していくため、自転車の活用を総合的・計画的に推進している。
- 国は、自転車の活用推進に関する以下4つの目標を掲げている。

- 目標1 自転車交通の役割拡大による良好な都市環境の形成
- 目標2 サイクルスポーツの振興等による活力ある健康長寿社会の実現
- 目標3 サイクルツーリズムの推進による観光立国の実現
- 目標4 自転車事故のない安全で安心な社会の実現

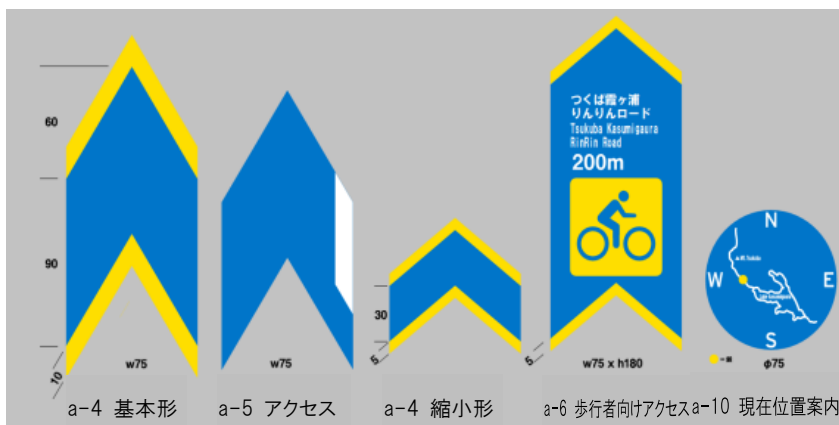
- 実施すべき施策として、「自転車通行空間の計画的な整備の促進」や「シェアサイクルの普及促進」等を掲げている。

(2) 水郷筑波サイクリング環境整備総合計画(平成 28 年6月策定 茨城県)

- つくばりんりんロードや霞ヶ浦湖岸道路、筑波山周辺等の14市町村が地域の特性を活かした「回遊性のあるサイクリング」をテーマに、誰もが多様にサイクリングを楽しむことができる環境の構築を目指している。
- 整備のための統一的な考え方や基準を「水郷筑波サイクリング環境整備事業自転車走行環境整備ガイドライン」に取りまとめている。
- 拠点施設の整備において、県産木材の利用推進を図ることとしている。



< 県産木材の利用 >



< 標識レイアウト一覧 (一部) >

(資料)
水郷筑波サイクリング環境整備総合計画



図 既存の拠点施設の配置

(3)石岡みらい創造プラン(平成 30 年3月策定)

- 石岡駅周辺整備など駅を中心とする交通結節点の機能強化とともに、主要施設へのアクセスを良くするなど地域公共交通の利便性を高め、快適で活力ある都市づくりを目指している。
- 観光においては、市内の観光資源や特産品を活かした魅力アップを推進するとともに、周辺自治体との連携による周遊観光にも注力することで、観光入込客数の増加を図ることとしている。
- 地域や関係機関と連携して交通安全の推進や防犯対策を充実することとしている。
- 近年増加している生活習慣病の予防や、生涯にわたって健康的な生活を送れるよう健康づくりの活動を支援することとしている。
- 市民一人ひとりが生涯を通じて希望と生きがいを持っていきいきとした生活を送っていくために、生涯学習の推進や生涯スポーツの推進をすることとしている。

(4)石岡市都市計画マスタープラン(平成 29 年3月策定)

- 子どもや高齢者等，自動車を運転・利用できない交通弱者の移動ニーズに対応するため，公共交通網の再構築を図るとともに，バスの利用促進等を目指すこととしている。
- 観光拠点へのアクセス性の向上や周遊観光の推進のため，レンタサイクル・サイクリングロード等の整備・充実を図るとともに，案内板の充実や周遊ルートの開発を進めるとしている。
- 恋瀬川や園部川等においては，水辺環境をいかした親水空間やサイクリングロード等の整備により，歩行者や自転車が気軽に利用できる水と緑のネットワークづくりを進めるとしている。
- 緑豊かな丘陵地については，今後も良好な自然環境を保全するとともに，レクリエーションの場としての活用を検討するとしている。

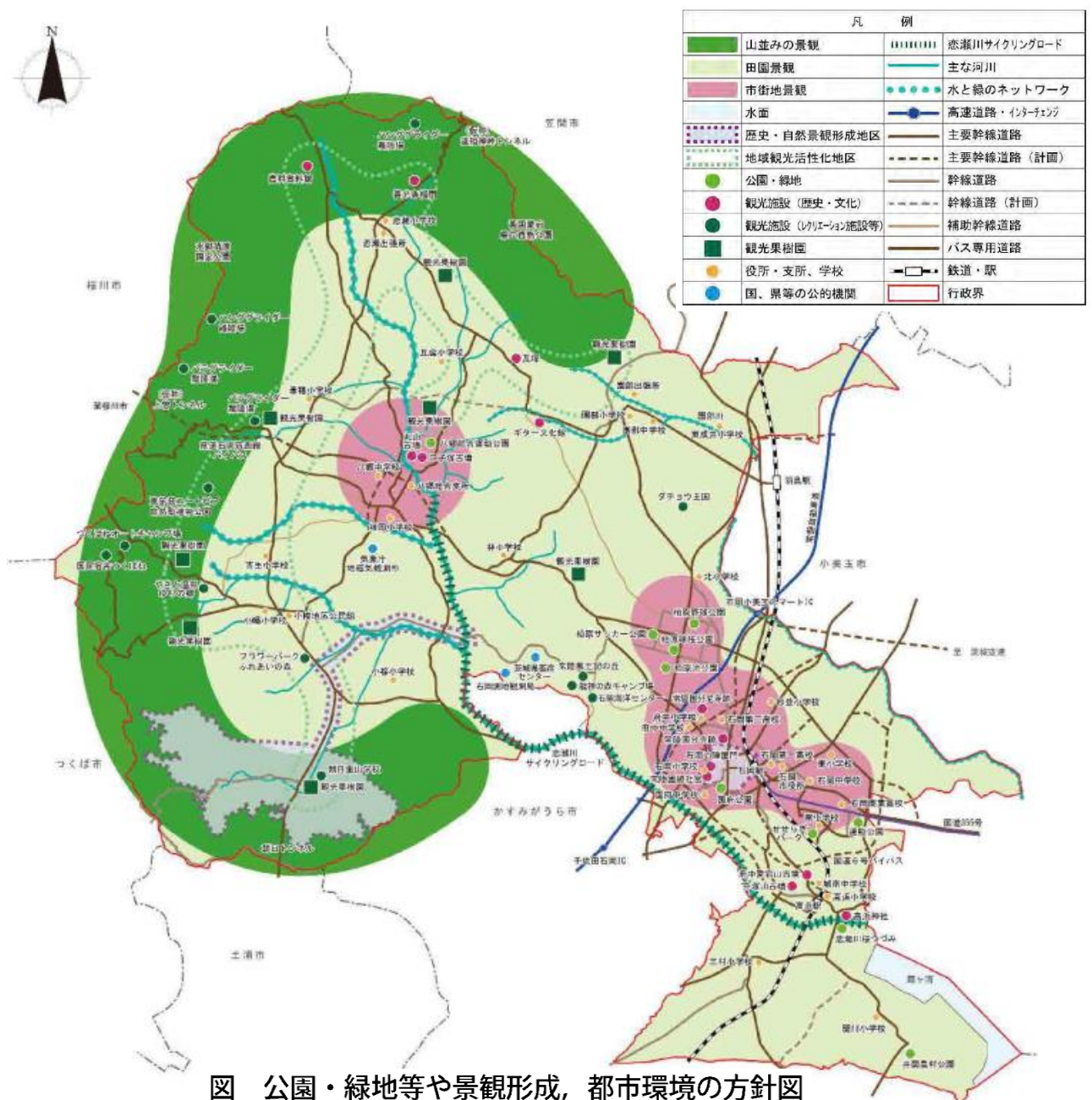


図 公園・緑地等や景観形成，都市環境の方針図

(資料)石岡市都市計画マスタープラン

(5)まち・ひと・しごと創生 石岡市総合戦略(平成 27 年3月策定)

- 近年観光客の増えている筑波山等を起点に、近隣市町村と協力し、互恵的な広域周遊観光メニューをさらに充実することとしている。

(6)石岡市観光振興計画(平成 27 年3月策定)

- ジオパーク認定を目指した子供向け学習講座の開催やサイクルステーションの充実など、筑波山麓の豊かな自然環境を様々な嗜好の観光客に対応する観光資源として、魅力づくりを行うこととしている。
- 高浜（霞ヶ浦）入りや恋瀬川などの水辺環境を活用し、観光資源を有機的に繋ぐ周遊観光メニューを拡充させることとしている。具体的には、霞ヶ浦周遊ツーリングイベントの開催、電気自転車の拡充、サイクルステーションの整備などに取り組むこととしている。



<霞ヶ浦高浜入江>

(資料)石岡市観光振興計画

(7)石岡市景観計画(平成 24 年 11 月策定)

- 恋瀬川等の水系を中心に、山並みを見上げる良好な眺望点が多く存在する地点をつなぐ、緑と水を中心とする自然景観の軸線を意識した景観づくりを図ることとしている。
- 中心市街地の近代建築物等の景観、八郷地区の自然・農業景観、霞ヶ浦の水の豊かな景観において、それぞれの資源を生かした景観づくりを図ることとしている。
- 親しみを持てる景観構築のため、市民自ら景観を意識し、事業者も協調して景観の向上に取り組むことが大切であり、行政と協働による景観形成の仕組みづくりを推進することとしている。



(資料)石岡市景観計画

図 景観形成基本方針